

日経平均株価

5万8475円90銭

▼1042円44銭(前日比)

TOPIX

3760.81

▼53.65(前日比)

2026
4/20
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



原油高の影響が気になる

3月期決算発表本格的にスタート



原油高はコスト増に直結

テク企業は増益予想を打ち出している。そのうち、AI関連の企業は、3月期の業績予想を大きく見上げており、AIに絡むハイテク企業は増益予想を見込んでおり、この好調が持続すれば今期も期待できる予想を打ち出している可能性は高そうだ。28日発表予定の信越化学工業(4063)も半導体材料は主力のウエハ向けに好調に続く。塩化ビニル樹脂などの素材の動向が気になる。

慎重な銘柄選別が必要

1億円(同9.0%増)

4月後半に突入し3月期企業の通期決算発表が5月に向けて本格的にスタートする。前26年3月期は第3四半期までの状況から想定通りで着地しても今27年3月期予想がどうなるかが最大の関心となる。米国・イスラエルによるイランへの攻撃でホルムズ海峡が封鎖され、原油高騰が利益圧迫要因となる。各社とも中東情勢の緊迫化が続けば慎重な利益予想となる可能性が高く、株価がどう織り込むのかを含めてより慎重な銘柄選別が求められることになりそうだ。

日経平均の日足チャート



ゲームでは5月8日の任天堂(7974)はAI向けの需要増で高騰している。メモリの影響からゲーム機本体の値上げなどの懸念がある。同じく8日発表のトヨタ自動車(7203)を含めて自動車メーカーも原油高騰による影響が気になる。SUBARU(7270)がすでに中東向け輸出を停止しており、他社でも同様の動きがあるかも知れない。

さくらネット連続S高

マイクロソフトと協業好感

週明け6日、さくらインターネット(3778)が連続ストップ高。日本マイクロソフトと国内のAIインフラの選択肢の拡大を目的に協業、「Microsoft Azure」のユーザーがさくらネットのAI計算基盤を活用できるソリューションの共同開発を検討すると発表することが引き



4月第2週の動意銘柄

Olympic子会社化

続き好感された。会社側は「運用要件に配慮した柔軟なAIインフラの選択肢を提供する」とコメントしている。

がストップ高。この日、8時30分にパン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(7532)が株式交換により完全子会社化すると発表されたことが材料視された。パンパシフィックHDはOlympicグループ1株に対してパン・パシフィックHD1.18株を割り当てる。

グローバル社急伸 大東建託が子会社化へTOB

7日、T H E グロ ーバル社 (327) が急伸。6日の取引終了後、大東建託(1878)が完全子会社化を目的に1株1280円でTOB(公開買付)すると発表したこと

からTOB価格にサ

Aバランステ許侵害

ヤ寄せする動き。(3856)がストップ安。子会社などが関係する法的手続について、米国国際貿易委員会が調査を開始したと発表した。

米ファーストソーラーが同社グループ会社で製造・販売するTOPCon太陽電池セル、太陽電池パネルなどの製品が特許を侵害していると

公開価格11%上回る

システムエグゼ(548)がこの日、東証スタンダード市場に新規上場、公開価格950円を11.68%上回る1061円で初値が生まれた。同社はシステムインテグレーションと自社開発によるソフトウェアプログラムの提供を行う。

公開価格1.9%下回る

ヒトヒトHDDの初値(549)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格430円を1.9%下回る422円で初値を付けた。スポーツイベント運

する申立てしており、特許侵害が認定された場合、米国への輸入排除や販売差止め命令などが発令される可能性がある。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は続伸しました。日経平均は前の週から1551円上昇しています。米・イラン和平協議への期待から米国株市場はハイテク株を中心に買入優勢の展開が続く、ナスダックとSP500指数が最高値を更新した。流れを受け、史上最高値を更新しました。週末はさすがに、期待されたものの、期間中はホト宣言、N台まで急落0ドルを超える明けは大幅高でできる状況になり、リード役は引かれています。かどこまで買いか見極める必要があるでしょう。利益確定を優先してこれから始まる3月期決算発表に備えたいと思います。 花咲翁

利食い優先し決算に備える



営、オフィスビルや商業施設の警備・清掃人材派遣、商品・サービス販売支援などを営むグループ会社の経営管理と付帯する業務を行う。

ACSL防衛省から受注

8日、ACSL(6332)が続騰。防衛

省が実施した入札において、小型空撮機体に関する大型案件2件を受注したと発表された。受注金額は1機目が約3.5億円、2機目が約0.7億円。防衛・安全保障分野への貢献を重点戦略として掲げている。

キオクシアが最高値

上場来初配当検討と伝わる

8日、キオクシアホールディングス（285A）が継続騰、最高値を更新した。「上場来初の配当実施を検討し始めた」と伝わった。

半導体メモリ価格高騰で2027年3月期は業績が急拡大する見通しで、積み上げる利益を株主還元に向けける構え。6月に予定する投資家向け説明会で成長



投資や株主還元など中長期の資本配分の考え方を示す方針としている。

INDEX原油価格下落

INPEX（1605）が大幅に3日続落。米国とイランが2週間の停戦で合意したことを受けてWTI原油先物が1

00ドルを割り込み一時91ドル台までまで下落したことで、目先のな売りに押された。ただ、他の原油関連には高い銘柄もあることから、原油価格が高止まりするとの見方から下値買いを誘っており、朝安のあとは下げ渋った。

サイゼリアは大幅反落

9日、サイゼリヤ（7581）が大幅反落。26年8月期の業績予想について、連結営業利益で190億円から182億円（前期比17.8%減）へ下方修正した。

独自のノウハウを外に出すことなく、組織内で活用できるオンプレミス型生成AI「Sovereign GaiXer（ソブリン ガイザー）」の正式受注を開始したと発表した。

公開価格65%上回る

ソフトテックスの初値ソフトテックス

（550A）が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格を64.9%上回る3200円で初値をつけた。システム開発関連事業を行う。

FIXERストップ高

FIXER（5129）がストップ高。機密性の高い情報や

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

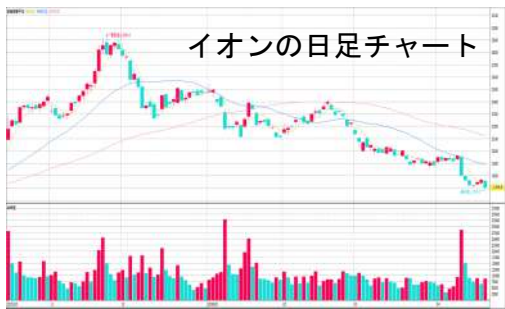
プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



イオン急落し新安値

26%増益で増配も予測に届かず

9日、イオン（8267）が急落、年初来安値を更新した。

27年2月期の連結業績で、営業利益3400億円（前期比25.7%増）と連続過去最高益更新を見込み、年間配当を15円へ株式分割を考慮した実質増配を計画した。ただ、市場予測に届かず失望売りを浴びた。ディベロップ、ヘルス&ウェルネス、サービス・専門店の収益力を強化することで

大幅増益を見込む。

週末10日、ファーストリテイリング（9983）が急伸。27年8月期の業績予想について、連結売上収益で3兆8000億円から3兆9000億円（前期比14.7%増）へ、営業利益で6500億円から7000億円（同24.1%増）へ上方修正、期

ファーストリ増額増配

0億円から7000億円（同24.1%増）へ上方修正、期

末配当を270円から320円（前年同期260円）へ引き上げた。下期の業績を足元の販売状況を踏まえたことと円安が寄与した。

ローツエ22%営業増益

ローツエ（6323）が6連騰でストップ高。27年2月期の業績で連結営業利益で前年同期比2.3%増の381億1200万円を見込んだ。ベトナム子会社で新工場の建設を進めており、需要増に対応していく。

古野電一時ストップ高

古野電気（6814）が一時ストップ高まで買われた。2

JINSHDストップ高

4月第3週の動意銘柄

週明け13日、ジンスホールディングス（3046）がストップ高。同社は10日の取引終了後、

26年8月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で111.6億5000万円から110.3億9200

0万円（前期比13.6%増）へ、営業利益で130億円から127億17200万円（同5.6%増）へ下方修正した。国内アイウェア事業では、一部商品が販売

計画を下回ったものの、下方修正幅は想定よりは小幅の受け止め、下振れが上期が中心だったことから下期からの回復を期待した買いが優勢になった。

と損益が改善したが、期末一括配当を196円から125円に引き下げたことが嫌気された。高配当利回りが株価を支えてきたことで手じまい売りがかさんだ。

7年2月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比4.6%増の170億円を見込み、配当は年間160円（前の期100円）へ増配した前期と同様の160

円とすることが好感された。在庫面では、長納期部材の影響に伴う評価損の発生を踏まえつつ、適正な在庫水準の確保に向けた取り組みを進めていく。

タマホームは減配

タマホーム（1419）が急反落。先週末取引終了後に発表された26年5月期第3四半期累計の連結決算は、営業損益は33億7500万円の赤字（前年同期49億3900万円の赤字）と損益が改善したが、期末一括配当を196円から125円に引き下げたことが嫌気された。高配当利回りが株価を支えてきたことで手じまい売りがかさんだ。

七転び八起き

読者の皆様、一週間お疲れ様でした。

先週の前半には上げ過ぎによる調整を想定していたのですが、16日に一気に市場最高値を更新しましたね。でも流石に一旦は利益確定売りが出やすくなると思っておりますが、イラン外相によるホルムズ海峡「開放」宣言で週明けの日経平均は6万円抜けもあるんじゃないでしょうか。

キオクシアHD（285A）は再びGO!できる場面はあると思っております。それと以前からチェックしている銘柄では栗田工業（6307）がそろそろTAKEOFFしてしてほしいと思います。原油のくみ上げ含めて同社の技術は必要ですからね。その他では島津製作所（7701）、サンリオ（8136）です。テラドローン（278A）は未だ強いですがもう追いかけません。三井物産（8031）も気になるのですが…。今週も頑張りましょうね。

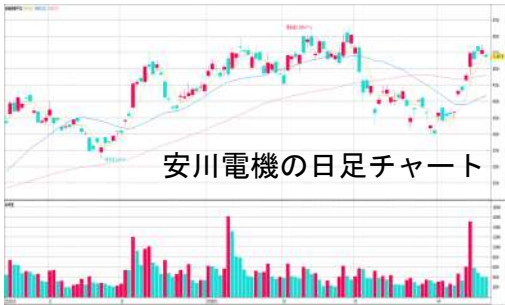
（若様）



安川電27%営業増益

フィジカルAI関連に買い広がる

13日、安川電機（650）が7連騰。27年2月期の業績予想を發表、連結営業利益で前期比26.8%増の600億円を見込んだ。律型のAIロボット「MOTOR MANNEX」の適用市場拡大に向けて、フィジカルAIの領域を拡大させるとともに、新たな場面・状況への



のロボット展開に向け、パートナーとの連携によるユースケース（社会実装）の創出を目指していく。

菊池製作所（344）がストップ高まで買われたほか、ハイモニック・ドライブ・システムズ（6324）やヒーハイスト（6433）などフィジカルAI関連銘柄に買いが広がった。

キオクシア連日最高値

サンディスクと両輪で買い

14日、キオクシアホールディングス（285A）が8連騰、連日で最高値を更新した。NY市場ではサンディスクが急伸、メモリ関連で両輪として同社株も買いが買われている。半導体メモリの価格高騰で2027年3月期は業績が急拡大する見通しで積み上がる利益を株主還元に向け、6月に予定する投資家向け説明会で、成長投資や株主還元など中長期での資本配分の考え方を示す方針も伝えられている。

27年2月期は、連結営業利益で22.2%減の35億円を見込んだ。人材を確保することを目的とした処遇改善を昨年に引き続き実施。これに伴う人件費の増加が圧迫する。

東洋電機製造（6505）が急伸。13日の取引終了後に発表された26年5月期第3四半期累計決算は、連結営業利益で前年同期比47.2%増の18億9500万円となったことが好感された。国内でのインバウンドの回復などによる鉄道利用者数の増加を受けて、鉄道事業者の車両投資が活発であり、新造車用製品や機器更新の受注が増加している。

マナーフォワード（3994）がストップ高。14日取引終了後、株主優待制度の導入を發表した。毎年5月末日と11月末日時点で100株以上保有する株主に対して「マナーフォワードME」プレミアムサービス「スタンダードコース」半年分クーポンを贈呈する。併せて、26年11月期業績予想を上方修正したことも好感された。

太陽誘電が4連騰

AI向けコンデンサに期待

15日、太陽誘電（6976）が大幅に4日続伸。AIに絡むハイテクが幅広く物色されるなか、積層セラミックコンデンサを手掛ける同社株にも資金が向かった。AIサーバーむけには大量のコンデンサが搭載されることから、来期以降の受注

増に期待が高まる。

キオクシアホールディングス（285A）が9日ぶりに大幅反落。NY市場でサンディスク株が14日に反落したことで利益確定売りが出た。短

884）がストップ安。27年2月期は連結営業利益で前期比27.5%増の20億円を見込んだ。ただ、26年2月期は下ブレで着地したことを嫌気した売りが高んだ。引き続きM&Aにより新たな企業をグループ化することに意欲を見せている。同時に株主優待制度の拡充も發表した。

ヨシムラ・フード・ホールディングス（2

CSP22%営業減益

セントラル警備保障（9740）が急落。

ヨシムラ・フード・ホールディングス（2

ヨシムラ・フード・ホールディングス（2

ヨシムラ・フード・ホールディングス（2

ヨシムラ・フード・ホールディングス（2

出遅れ銘柄が修正高へ

日経平均は6万5000円を指す

先週の日経平均は16日に史上最高値を更新しました。13日は下落したのですが、14日から反発に転じ上値を追求動きが続いて初の5万9000円台に載せたことになりました。この間、主に上げたのは半導体系、AI関連など中心で一般銘柄はおいてきぼり状態になっており、二極化状態で達成したことが目立ちました。

上週の日経平均は16日に史上最高値を更新しました。13日は下落したのですが、14日から反発に転じ上値を追求動きが続いて初の5万9000円台に載せたことになりました。この間、主に上げたのは半導体系、AI関連など中心で一般銘柄はおいてきぼり状態になっており、二極化状態で達成したことが目立ちました。

高野恭壽の株式情報 これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

住友ファと東電HDに注目

住友ファーマ(4506)は2500円台まで突き進むことも考えられます。いよいよ勝負の時が近づいたようです。13日の決算発表後に3000円に挑戦していくと信じています。公募の値決めの前という点もあって、値は抑えられることになりそう。深押し場面は拾うべし。一方、東電HD(9501)はようやく原発の営業運転が始まり、それを好感して戻して行くものと見ています。外資系の資本が新たに入り込みますので引き続き注目を必要とします。

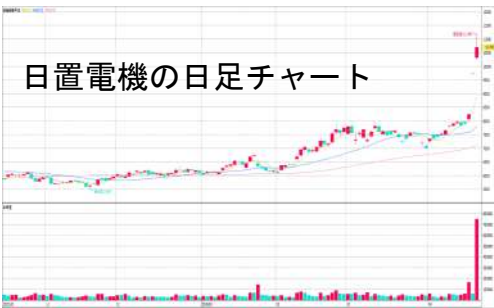
住友ファーマ(4506)は2500円台まで突き進むことも考えられます。いよいよ勝負の時が近づいたようです。13日の決算発表後に3000円に挑戦していくと信じています。公募の値決めの前という点もあって、値は抑えられることになりそう。深押し場面は拾うべし。一方、東電HD(9501)はようやく原発の営業運転が始まり、それを好感して戻して行くものと見ています。外資系の資本が新たに入り込みますので引き続き注目を必要とします。

入るとみています。AI関連の銘柄も修正高に向かいそうです。そのあとは調整に入るとみています。AI関連の銘柄も修正高に向かいそうです。

日置電機ストップ高

1Q28%営業増益を好感

日置電機(686)がストップ高。26年1月期の決算は、営業利益で前年同期比27.8%増の23億6000万円となったことが好感された。エネルギー市場向けがデータセンターの普及を背景に大幅に伸びている。



フイジカルAI騰勢

ロボットAI革命で日本重視

週末17日、津田駒工業(6217)と菊池製作所(344)が連続ストップ高、ヒーハイスト(6433)も大幅に続伸するなどフイジカルAI・ロボティクス関連の一角の騰勢が目立つ。エヌビディアと半導体設計ケイデンス・デザイン・システムズがロボット工学向けAI開発で提携したことをきっかけに関連銘柄への関心が改めて強まるなか、値動きの良さが短期資金を呼び込んだ。エヌビディアのジェンソン・ファンCEOはロボットが主導するAI革命を担う国として日本を重視しているという。

テクノフレクス51%増益

テクノフレクス(3449)が大幅高、連日で最高値を更新した。26年12月期第2四半期累計の連結業績予想について、営業利益を17億円から29億円(前年同期比51.1%増)へ大幅に上方修正したことが引き続き好感された。クリーンエネルギー関連と半導体関連市場を中心に産業設備や真空機器の受注が拡大している。

WHY HOW DOOD 急伸 THE WHY ANY (3823)

J
P
X

関西経済の活性化を図る

～大阪取引所で多賀谷 彰新社長が就任～

デリバティブ市場の競争力強化



多賀谷 彰社長

日本取引所グループ（8697）の大阪取引所は4月1日に多賀谷 彰氏が新社長に就任、就任会見を大阪取引所で行った。

多賀谷 彰氏は1990年4月に東京証券取引所に入所、その後、東京証券取引所グループ渉外広報部長や

日本取引所グループ広報・I

R部長、大阪取引所市場企画部長兼デリバティブ市場営業部長などを歴任し、大阪取引所取締役常務執行役員を経て今回の社長就任となった。

多賀谷 彰社長は、大阪取引所は日本取引所グループの西日本の拠点として関西経済の活性化を図るべくスタートアップ企業の支援を強化していくとし、これまでの経験を生かして22

5先物・オプション取引をはじめとしたデリバティブ市場の競争力を高めて、機関投資家から個人投資家

にいたるまで国内外と問わず幅広い投資家を呼び込むことで更なる活性化に意欲

見せた。

さらに有価証券オプション（個別株オプション）と株式投資を併用することによるリスクを抑えた投資をアピールするとともに、4月13日に上場した通貨先物を普及させることで、様々なデリバティブをワンストップで提供できる利便性も国内外の投資家にアピールしていくと意欲を見せている。

また、

大阪取引所は

関西経済の

活性化を図る

5先物・オプション取引をはじめとしたデリバティブ市場の競争力を高めて、機関投資家から個人投資家にいたるまで国内外と問わず幅広い投資家を呼び込むことで更なる活性化に意欲見せた。

また、

大阪取引所は

関西経済の

活性化を図る

大阪取引所は

関西経済の

活性化を図る

大阪取引所は

企業
レター



購読会員募集中！

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄！！



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!
花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞

www.marketpress.jp

建物を再生し、 次世代につなぐ。



大阪城公園内にある「MIRAIZA OSAKA-JO」。

100年近い歳月を重ねた建物が
新たな複合施設へと生まれ変わりました。

大和ハウス工業は歴史的建造物の趣を生かすリノベーションを通じて、
賑わいと文化を次世代へ継承する取り組みをサポートしました。

そしてこれからも、不動産の再生と循環を通じて
持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

不動産の再生 [買取・再販]

不動産の売却 [売買・仲介]

修繕・改修 [維持管理]

BIZ Livness

事業・商業施設の再生は ビズリブネス

詳細はこちら



大和ハウス工業株式会社 〈不動産ストック事業〉

東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112

Tel 03-5214-2424

www.daiwahouse.co.jp



星野三太郎の株街往来

～節約で新たな発見～

★ 自転車でいえば4月から違反への取り締まりが厳しくなったことから近距離で荷物が少ないときは極力徒歩での移動をここがけている。自宅から徒歩で駅まであると例えれば小学校前に桜の木があるとか普段は見えないものが見えてくる。普段は自転車移動が多い北浜界隈も昔は洋食店があつたところなど菓子店があるなど歩くことで時代の変化を感じるのはいいことだと思つた。節約も楽しみながらするなら続けられる。



イラン 戦争で波乱の動きが続いていたが、株式市場はようやく落ち着きを取り戻してきた。ただ、日々の生活面では原油高騰の影響から食品や身の回り品などがジワリと上昇しているのを肌で感じる。例えば食品スーパーのサッカード台にあるロール式のポリ袋も無料だからこれまででは気軽に使っていたが、デイリースーパーでは置かなくなっている店もできることは自動車をやめて自転車や徒歩にすると、節約に極力務めることぐらいだ。



New product

サントリー食品

「飲むサプリ」シリーズ

手軽においしく栄養とれる健康習慣

飲むサプリシリーズ



サントリー食品インターナショナル(2587)グループのサントリービバレッジ&フードは、サントリーウエルネス社の主力サプリメント「ロコモア」、「セサミン」ブランドから、日常の水分補給の延長線上で、手軽に、おいしく栄養を取れる健康習慣

の新たな選択肢として、「飲むサプリ」シリーズ「ロコモアWATER」と「セサミン1000」(一般食品)を発売した。

日常の水分補給の延長線上で、手軽に、おいしく栄養を取れる健康習慣の新たな選択肢として開発。500mlの飲料タイプで、水分補給に適したすっきりとした味わいが特長。量販店などで1本単位から購入できるため、毎日の生活で気軽に摂取できる。共同研究を行った「サントリー生命科学研究所」の名をパッケージに表記している。

なとり

チータラピザポテトの風味

おやつやおつまみの枠を超え楽しめる

なめらかチータラピザポテトの風味



なとり(2922)は「なめらかチータラピザポテトの風味」を4月20日から期間限定で発売する。

「チータラ」は常温保存でいつでもどこでも手軽に楽しめるロングセラー製品。大人から子どもまで幅広い世代に愛される

「ピザポテト」の風味を取り入れることで、「なめらかチータラ」をおやつやおつまみの枠を超えて楽しめる。「ピザポテト」にも配合されているチーズ、トマト、パセリ、じゃがいもの風味をいかし、再現度を高めており、コクのあるチェダーチーズとクセのない味わいのクリームチーズをブレンドして使用することで、「ピザポテト」の味わいを引き立てる配合にしている。

潮流

半導体相場が止まらない

海外投資家の買越額は過去最高

marKet/bAnk

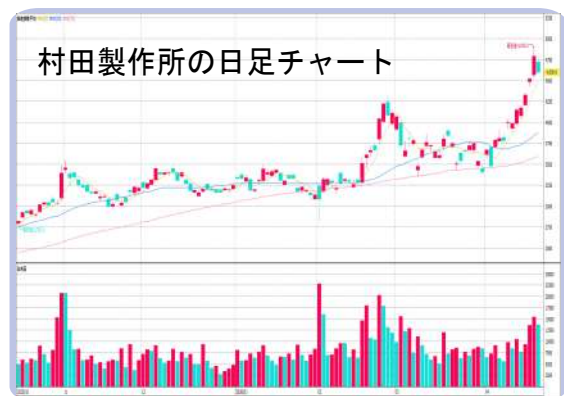


半導体相場が止まらない。14日の米株式市場でダウ工業株30種平均の終

値は317ドル74セント（0.65%）高の4万8535ドル99セントと3月4日以来の高値。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は10日続伸し、455.347ポイント（1.96%）高の2万3639.083と1月29日以来の高値だった。10日続伸は2021年11月以来4年5か月ぶり。多くの機関投資家が運用指標とするS&P500種株価指数は81.14ポイント（1.17%）高の6967.38だった。2月2日以来の高値となり、米国とイスラエルがイランを攻撃する前の水準を回復した。

15日の日経平均株価は256円85銭（0.44%）高の5万8134円24銭で終えた。3月2日以来となる5万8000円台を回復。一時、上げ幅は一時700円を超え、5万8585円を付け、2月27日に付けた最高値（5万8850円）に迫った。

相場の牽引役は人工知能（AI）と半導体関連株だ。中東情勢の先行きが不透明な中、業績成長が比較的に見通しやすいセクターとして投資資金を集めている。2月末からの騰落率を比べると、14日時点で日経平均が1.7%安の半面、主要な半導体銘柄で構成する日経半導体株指数は11.5%上昇した。



米国市場でもフィラデルフィア半導体株指数（SOX）が11.6%高でS&P500（0.1%）を大きく上回っている。

半導体メモリーメーカーのキオクシアホールディングスは同期間で株価が65%の大幅

高となった。14日のキオクシアホールディングス株の売買代金が1兆6447億円となり、単一銘柄の日中取引では過去最高を更新した。主力のNAND型メモリーの価格高騰に伴う業績拡大期待が高まる中、株価の上昇幅に着目した短期筋の資金も流入して売買を膨らませた。

日米の半導体株指数はイラン攻撃が終結していないにもかかわらず戦闘開始前の水準を回復している。イラン情勢悪化で景気の不透明感が強いからこそ、半導体関連が相対的に業績の安心感が強いセクターとして投資資金の受け皿になっている。

買いの主体は外国人投資家だ。4月第1週（3月30日～4月3日）の投資部門別株式売買動向（東証と名証の合計）では海外投資家の買越額が1兆9149億円と過去最高となった。

潮流銘柄は村田製作所（6981）、日本ケミコン（6997）、ジーエス・ユアサ（6674）。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

業績安心感強く投資の受皿



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

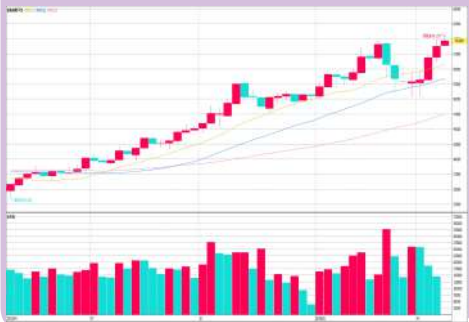


トランプ仕掛けでふるい落とし

ナスダックの日足チャート



日経平均の週足チャート



（ハチロク）
る。060は、週定るヤ万経
ジをの万00、のの展開レン円円台に
想定の005、の展開ををに
定5円5万。今をををす
す00円5万。今をををす
す00円5万。今をををす

先週の日経平均は前週末比約1551円高と続伸、一時は最高値を更新し4週連続の週足陽線となった。イランと米国は2週間の停戦を締結し、更に停戦期間を延期するとの発表から、終戦が見えてきて市場がリスクオンの動きとなった。

高い日経平均が値を飛ばした。前週末終値の比較では日経平均が2・7%上昇したのに対しTOPIXは0・6%の上昇に留まった。ホルムズ海峡の封鎖により中東からの石油輸送がストップし、そこから派生する化学材料の需給は逼迫した。これらの影響が内需株の多いTOPIXが伸び悩んでいる原因と思われるが、ホルムズ海峡開放後は再び内需株主導の上昇も期待できよう。

上昇した。その間、实体经济は高関税の打撃を受け、自動車産業を中心に収益を押し下げた。しかし、指数（インデックス）は高値を取る動きとなった。今回も銘柄によっては上昇する株や下落する株がまちまちで選別は難しいが、指数は上昇しておりインデックス投資の強みがでてくる。

段高の可能性も出てきた。個別銘柄の選別が難しい時は指数投資をメインに考えるのも戦略としては良いと思われる。今週は停戦から終戦を織り込む相場になると思われ、日

関税ショックと極似

指数投資戦略も一法

今回のイランへの攻撃の株価の動きは昨年のトランプ関税の時の動きと似ているとの指摘もある。当時は関税ショックで大幅下落となったが、その後はほとんど調整もなく株価は

日経225先物の日足チャート



